

2023 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [横浜市立本宿中学校] 担当教諭名 [矢嶋 優樹・野口 雅史] (全学年有志 24名)
 相手国・地域 [チュニジア]
 海外学校名 [Rejiche Youth House] 担当教諭名 [大島 都(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	課外活動	アートマイル国際協働学習プロジェクト	35

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	陸と海の繋がり
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	相手国の文化や生活およびSDGsの12と14を調べていく中で、日本とチュニジアの代表でもある桜とオリーブの木がお互いに有名であることが分かった。そこで、文化や社会が発展していく中でもつくる責任やつかう責任があること、大切な海を守りたいという想いを込めてこの作品を制作した。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・複数年にわたって参加する生徒が増えたことで活気あるものになってきた。 ・有志のみの参加に加え、全学年が交流国に関わる機会をもつことができ、日本とチュニジアの文化を相互に学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有志の活動に加え、時差の関係上1回あたりの交流時間が1時間以内に限定されてしまい、深みのある学びへは工夫が必要に思えた。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・相手の文化を知ろうとする意識が非常に高くなった。生徒の振り返りの中で「他の国の人と関わるのは大変だと思ったけど、自分の英語でも伝わったと思うと楽しかった」などという記述があり、異文化に触れることへの意義を感じていた様子である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はチュニジア大使館から大使が来校し、全学年の前で講演会を行うことができた。昨年度は一部の有志だけの活動であったが、これを機に少なからず全生徒が関わることで国際理解教育としての価値を示すことができたと思える。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	6月 ～ 8月	チュニジアという国そのものと、SDGs12と14について、調べ学習を行った。文化や諸問題について再認識する機会をもった。	積極的にインターネットなどでSDGsや相手国について調べていた。疑問に思ったことは、フォーラムを通じて、質問をすることができた。	課外活動
共有 相手と意見交換	9月 10月	スライドのやり取りを通して、同じ問題を抱えている場面や異なる問題があることを共有することができた。	調べたことについて関心をもって聞いてもらえ、逆に自国との相違点を考えながら聞くことで課題の解決に必要なことは何かを考えることができた。	課外活動
融合 メッセージ作成	11月 12月	学んだことを踏まえてメッセージの発案および調整を行った。	「海の豊かさを守る」こと「つくる責任とつかう責任」を通して世界がどうなっ てほしいかをテーマに考えることができた。	課外活動
創造 壁画制作	12月 ～ 2月	双方で意見を出し合い、壁画のデザインを決定した。その後、半分ずつ両校で壁画の制作を行った。	一生懸命に制作する様子が見られた。制作していく中で、チュニジアのことをより身近に感じ、さらに調べてみたいという気持ちを持っていた。	課外活動
評価 振り返り 自己評価	3月	完成した壁画が届き、それを踏まえた振り返りを行った。また、完成した壁画をチュニジア大使館に持っていき、最後の活動を行う予定。	海外の文化、SDGs双方について考えを深めたり、実際に行動していきたいと考えたりしていた。来年度以降も可能ならば取り組みたい様子だった。	課外活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	5	今年度は協力校に加え、大使館や、青年海外協力隊が来校し、様々な人と関わり合いながら学ぶことができた。実際に民族衣装を着る機会があるなど異文化に触れ、考える姿を見て取ることができた。
主体的に考え行動する力	4	調べ学習を通して相手国や自国を知り、相違点を考えるきっかけとなった。この結果を全校生徒に向けて伝える場面が少なかったので来年度以降に行っていきたい。
批判的に思考する力 （客観的・論理的視点）	3	SDGsを通して行ったが前提知識が少なく、調べたことを紹介、共有、共感はあるが、それを批判的に考察するには時間と相手国とのコミュニケーションの少なさを感じたので、今後より発展させていきたい。
多様な他者と対話・協働する力 （海外の相手と対話・協働）	4	異文化交流に初めは抵抗をもつ生徒が多かったが、相手に伝えたいことが伝わったという体験は非常に意義のあることだった。今後は話した内容に深みが生まれる取り組みをしていきたい。
想いを表現する力 （メッセージ作成・壁画制作）	5	SDGsで調べたことをテーマに1本の木をみんなで育てていこうとする意味を感じられる作品をつくることができ、本当の意味での国際理解に向けた取り組みの第一歩を踏み出すことができた。